



2024年度
前期号

世界がひろがる！

こどもと地図

帝国書院

この絵の舞台は…

青森県弘前市

解説はp.19

2 巻頭特別掲載

豊かな学びを実現する地図帳を目指して
～3年生から6年生まで～ 岩本廣美

4 児童の地図作品の紹介

成徳の防災 吉永美穂

6 他教科で地図活用 外国語科

(5年)

地図帳を活用して「聞きたい」「伝えたい」内容を
充実させる外国語学習の実践
～“Fun”から“Interesting”への転換～
中谷佳子

8 学年別 地図活用のポイント

(5年)

「日本の国土とくらし」は気候と地形の特色と
季節風の線引き作業でSDG s 思考の基礎を育む
寺本 潔

10 地図にかいてみよう

町のイラストから地図をつくろう
吉田和義

12 『小学校で身に付けたい地図活用能力』のご紹介 ／付録解説

付録

地図で
世界発見！

13 わたしの地図活用

(3年)

地図帳と価値ある出会いを
～児童が自ら切り拓く、地図帳活用の可能性～
岩山直樹

16 地図の深読み

地理院地図と地図帳で産地調べ 今尾恵介

18 最新インフォメーション

日本と世界の動き

巻頭特別掲載 令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』発刊に際して

豊かな学びを実現する地図帳を目指して ～3年生から6年生まで～



2024年4月、3年生は新しい地図帳を手に入りました。帝国書院の令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』です。この地図帳は、現行の学習指導要領との関連および児童を取り巻く現代的課題への対応を念頭に置き、3年生から6年生までのすべての学年で豊かな学びを実現できるようさまざまな工夫を凝らしました。

学習指導要領との関連においては、3年生からの使用に対応した地図帳であることを再確認し、地図へのいざない、地図のやくそく、地図帳の使い方について、より丁寧な説明や地図の例示を心がけました（A）。また、児童の深い学びを実現する地図帳を目指し、社会科の各学年の学習内容をより深められるよう記号や色彩などを工夫したほか、児童の主体的な学びを促す「地図マスターへの道」に関わる問いの見直しを図りました。さらには、歴史学習や外国語の学習などでも活用できる地図帳となるよう内容を充実させました。江戸時代の歴史地図を新たに2見開き分設けたことはその一例です（B）。

現代的課題への対応に関しては、国際社会にとって喫緊の課題であるSDGsを学習できるように工夫を凝らしました。児童が無理なくSDGsの全体像を把握できる地図や説明をまとめたページを新たに設けた（C）ほか、世界の諸地域のページでは、「世界のSDGs」というコーナーを新設し、児童の理解を助ける工夫をしました。また、インクルーシブ教育の求めに応えられるよう、「手話で表す都道府県」を設けました。デジタル化への対応も、QRコードからたどって児童が興味・関心を持って学習できるようコンテンツを整備しました（A左、B右、C左）。

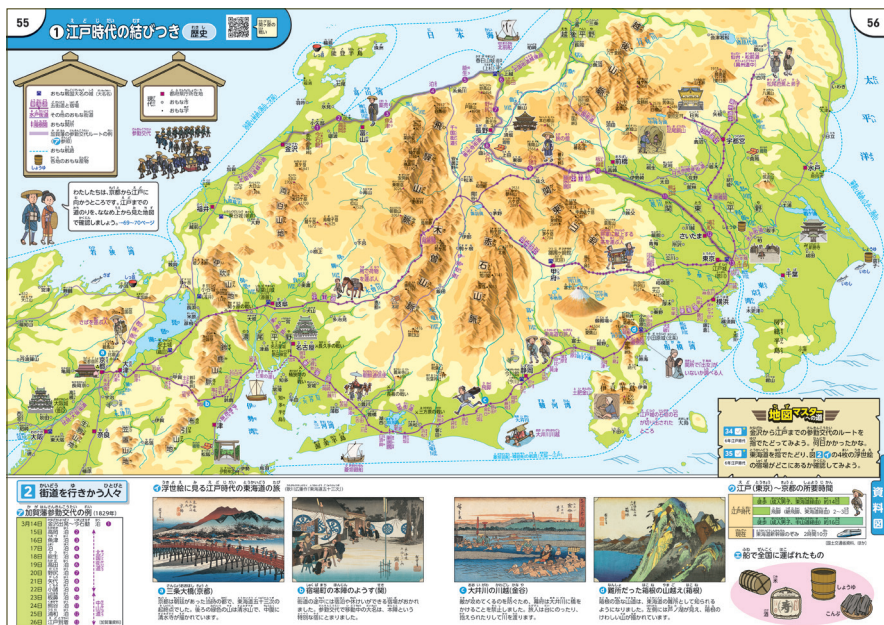
このわかりやすく、親しみやすく、見やすい、令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』を手にとった児童が、日本と世界への理解を深め、よりよい社会の形成に向けて自ら考え行動する人材に育っていくことを、私たちは強く願っています。

著作者を代表して

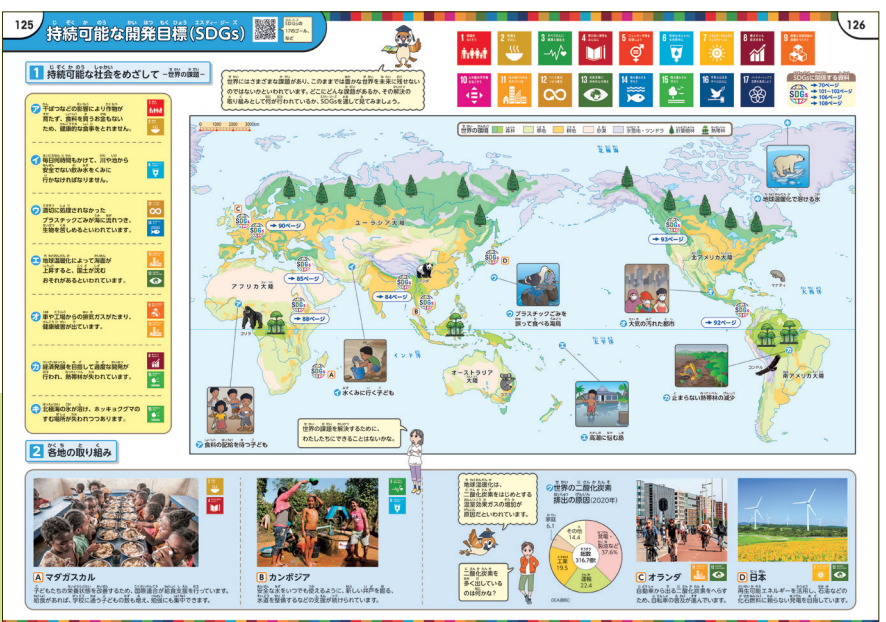
●奈良教育大学 名誉教授 岩本廣美



A 初めて地図帳を手にする3年生のために
 左：QRコンテンツ「地図の世界へようこそ」
 右：p.7～8「地図の世界へようこそ」



B 歴史を学ぶ6年生のために
 右：QRコンテンツ「関ヶ原の戦い」
 左：p.55～56「①江戸時代の結びつき」



C 持続可能な社会の実現に向けて
 左：QRコンテンツ「SDGs」
 右：p.125～126「持続可能な開発目標 (SDGs)」

児童の地図作品の紹介

今号は、第22回神戸市小学校社会科作品
吉永美穂さんの作品を紹介します！

「工夫はここ！」

防災設備の位置を示すピンと写真を糸でつないだところ。



神戸市ハザードマップ13枚が下に収納できる。

神戸市小学校社会科作品展

「神戸市小学校社会科作品展」は、今年（2024年）で第23回を迎えます。子どもたちが夏季休業中の自由課題として取り組み、作品の内容は、「神戸に関係の深いもの」「SDGsに関係するもの」「地図に関係するもの」など多岐にわたります。第22回作品展は、

神戸市内の小学校から約 650 点の作品が出展されました。毎年、国土交通省国土地理院長賞、日本地図センター理事長賞など6種類60点ほどの優秀賞が選出され、出展された全作品が9月中旬の2週間にわたって、「コミスタこうべ」に展示されます。

（神戸市教育委員会）

2023夏休み自由研究

<形ツリーズ6>

街の形2 成徳の防災

成徳小学校 6年2組 吉永美穂

▼取材した
場所を紹介。

平常時



←甲橋
群賢川



←上流側
から
下流側



←新原橋

洪水時



←阪中
大石駅
付近



←河口部

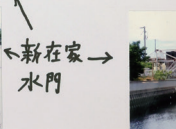
⑨ 防潮鉄扉 防潮水門



←新在家南町線



・高潮が予想された際、ゲートを道路に横断して
スライドさせて海水の浸入を防ぐ
・運河側の内水はポンプによって海側へ排水する



←新在家
水門

◎ 作成者

兵庫県神戸市立成徳小学校 6年
吉永美穂

成徳の防災

神戸の街で起こった災害は、阪神淡路大震災だけではないのではないかと普段の街歩きや六甲山登山の時から気になっていた。今回の夏休みにこれまで経験したことのない大雨が降り、過去に区内の都賀川で命が失われる水害があったことを知った。また、学校の授業で仙台市の同級生とオンラインで交流したこともあり、様々な防災について調べて生活に生かしたいと考えたのが研究のきっかけである。

正確な情報を入手して現地で現物を確認し、4年生で学んだ等高線の知識を元に立体地図を作製した。地図作りは砂防堰堤の数が多く、都賀川と住吉川流水域のみで100箇所以上もある位置をピンで指す作業が大変だった。

最も工夫した点は、防災設備の位置を示すピンと現地写真を糸でつないで分かりやすくしたことである。立体地図の下に各種ハザードマップを収納して様々な災害について素早く情報を得ることができるようにした。

私たちの住む街には地震や津波、水害、土砂災害などに対する様々な防災設備が整備されており、気づかないうちに守られていることが分かった。ただし、これらの設備に頼り切らず、自分たちが防災に取り組むことが大切だと思った。

(学年は作成時)

◎ 全国児童生徒地図優秀作品展での講評

立体地図として神戸の地形がよくわかる作品です。特に流域を色分けして、わかりやすい地図になっています。また、ハザードマップから危険箇所を抽出したほか、多くの情報が簡潔にまとめられており、引き出しや糸を使うなど見せ方も工夫されています。防災という課題をど

のように地図表現したらより多くの人に伝わるかを考えたものであり、見た人が防災について考えることに繋がる作品となっている点が評価できます。

(国土地理院ウェブサイトより)

* 吉永さんの作品は、第22回神戸市小学校社会科作品展では国土地理院長賞を、第27回全国児童生徒地図優秀作品展では国土交通大臣賞を受賞されました。



千葉大学教育学部附属小学校 教諭
中谷佳子

地図帳を活用して「聞きたい」「伝えたい」 内容を充実させる外国語学習の実践 ～“Fun”から“Interesting”への転換～

1 はじめに

2020年度から小学校中学年（3・4年生）では「外国語活動」が、高学年（5・6年生）では教科「外国語科」が始まり、必修化されました。

外国語特有のイントネーションやリズムによる歌やゲームで活動する授業を、多くの児童は楽しみ外国語に慣れ親しんでいます。ただ児童にはそれにとどまらず、外国語を使って、「聞きたい」「伝えたい」という「コミュニケーション」の本来のおもしろさを体験したり、世界に広がるさまざまな国の文化や人の営みに触れたりすることで、そのよさを感じてほしいと思います。そこでぜひおすすめしたいのが、地図帳の活用です。本稿では、第5学年“Where do you want to go?”の単元を例に、外国語学習において地図帳を有効活用する場面の具体例をお示ししたいと思います。

2 授業の実際と地図帳の活用

第1時 国名スリーヒントクイズで英語音声になれる

まず、担任とALTが行きたい国とその理由について楽しく会話をするところから授業を始めます。

担任：Where do you want to go?

ALT：I want to go to India.

担任：Why?

ALT：I want to eat curry. I like spicy food. How about you?
Where do you want to go?

担任：I want to go to the U.K.

ALT：Why?

担任：I want to see Big Ben.

これから学習することが、「旅行」であることがわかったら、ALTのスリーヒントを聞き、地

図上でその国の場所を探して、国名を答えます。

児童：Where do you want to go?

ALT：①It's in Asia.

②The flag's colors are red and yellow.

③This country is famous for The Great Wall.

ここで、授業の導入時に使用したいのが、地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）p.1～3「地図で世界発見!」〈②^{*}p.1～3〉（図1）です。この地図は地図上の情報が厳選されていること、そして何より国名がカタカナと英語で表記されているので「外国語科」で活用するのに適しています。「外国語科」では、「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「書くこと」の4技能を育成することが求められます。そのため、さまざまな場面で英単語やアルファベットに慣れ親しんでいく必要があります。児童は地図の国名の英単語を見ながら、ALTに続いて発音することができます。

第2・3時 行きたい国と理由を考える

前時に学習した国名を復習した後、導入で行った担任とALTの会話を想起させ、やり取りを確認します。本単元では、このやり取りが児童の「聞きたい」「伝えたい」を生み出す原動力となります。そのため伝えたいことを考えたり、伝える準備をしたりする十分な時間を確保することが必要です。

まずは、地図帳p.1～3やp.83〈②p.75〉からの各州の地図をめくってみるように促します。それぞれ「集まれ!世界の子どもたち」「世界のSDGs」など、その国の人々の営みや文化に触れることのできるコラムがあります。また、食べ物や動物、観光名所などおもしろい絵記号がたくさんあることに児童は気付きます（図2）。

^{*}②以下は、令和2年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』のページをさす。

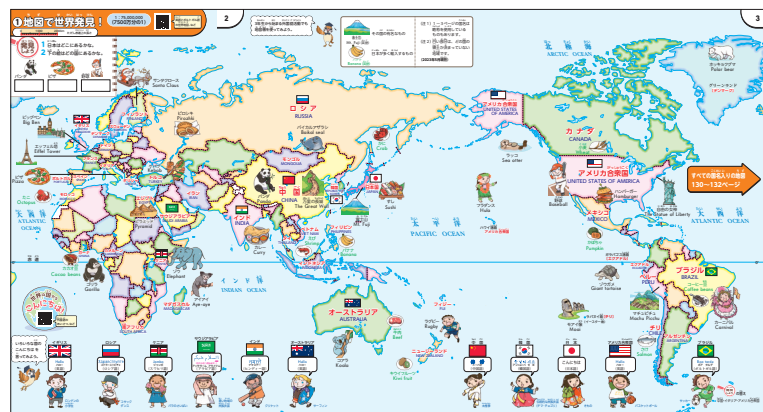


図1 「地図で世界発見！」
(令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.1～3)

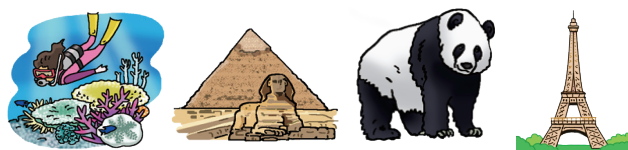


図2 各州地図ページの絵記号の例 (グレートバリアリーフ、
スフィンクスとピラミッド、パンダ、エッフェル塔)

地図帳のQRコンテンツ「世界のあいさつ」では、いろいろな国の「こんにちは」を聞くこともできます。地図帳を使うことで、多くの教材を用意しなくても、児童は自分の興味・関心に合わせて、行きたい国を決めることができるでしょう。

行きたい国が決まったら、パソコンを用意して、国旗や国の場所、行きたい理由を示す画像をパワーポイントに準備します。QRコンテンツには、「外国語の地図」としてアジアやヨーロッパ、アメリカ合衆国の地図があり、それを切り取って使うこともできます（写真1）。

第4時 行きたい国について話したり、聞いたりする

導入は、ALTのヒントをお手本にして、児童が作ったスリーヒントクイズで国名の発音を確認したり、担任とALTとのやり取りを復習したりします。その後2人組を作り、実際にやり取りをしていきます。その際に小さなシールを渡し、「地図で世界発見！」で友達が行きたい国に貼るよう促します。「どの国に行きたい子が多いのかな」「自分と同じ国に行きたい子は何人くらいいるかな」と、児童は友達の話に興味・関心をもって互いに聞いています。授業の終わりには、学級のみんなに行きたい国を発表する機会もつくりま



写真1
スライド資料作りの様子
授業では令和2年度版の地図帳を使用しています。

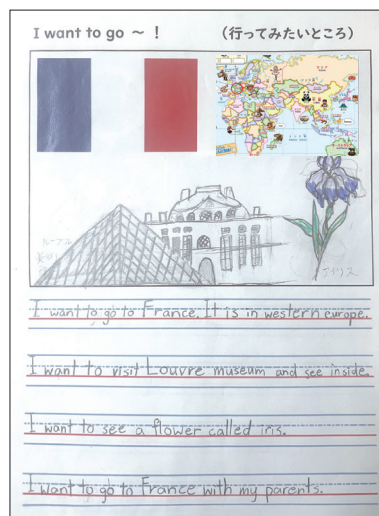


図3
児童が作成したワークシート

第5時 行きたい国のワークシートを書く

本時は、前時までの学習を、「書くこと」で表現します。児童が作成したスライド資料の画像をワークシートに貼り付け、伝えたいことを英文で書いていきます（図3）。自分で考え、何度も発話練習した表現だからこそ、児童は抵抗なく文章を書くことができます。中には「両親と行きたいって書きたいな」と新たな表現に挑戦する児童も出てきます。

3 おわりに

本稿では、第5学年の学習を例に「外国語科」における地図帳の活用をご紹介しました。もちろん他学年、他単元でも、その可能性は無限大です。これからも、地図帳を使って、その国の生活や文化にふれることで外国語のおもしろさを“Fun”から“Interesting”へ転換していきたいと思います。

「日本の国土と暮らし」は気候と地形の特色と季節風の線引き作業でSDGs思考の基礎を育む

●公立大学法人 名城大学国際学部 特任教授・玉川大学 名誉教授 寺本 潔

5年は地図帳の活用度が最も高まる学年です。

単元「日本の国土と暮らし」は自然環境の保全と地球温暖化を自分事として引き寄せるSDGs（持続可能な開発目標）思考の基礎ともなります。

1 小単元「国土の気候と地形の特色」は雨温図の読み取りと線引き作業が肝

変化の大きい日本の自然は、地域による気候の違い（緯度）と標高の違い（山地・平野）が密接に関連し、人々の暮らしに影響を与えています。筆者も執筆している社会科教科書では、北海道札幌市と沖縄県那覇市、長野県南牧村と千葉県香取市を事例に自然条件と人々の暮らしの相互依存関係に迫っています。佐原北部「水郷」のある香取市では「低地」という自然条件が学習の肝ですが、ほかの3事例では雨温図の読み取りが学習の肝となります。地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』）p.97～98（②※p.89～90）5には札幌以南6都市の雨温図が掲載されており、気温と降水量のグラフを丁寧に読み取る姿勢が大切です。とりわけ札幌と那覇の7・8月の気温比と上越の12・1月の降水量に着目させつつ、最近の猛暑と多雪が地球温暖化の影響を示していることにも触れておきます。日本の気候は「温暖湿潤・寒冷多雪」というキーワードで語ることができ、多雪は児童の興味を特に引き付ける題材です。地図帳p.97には季節風による日本海側への

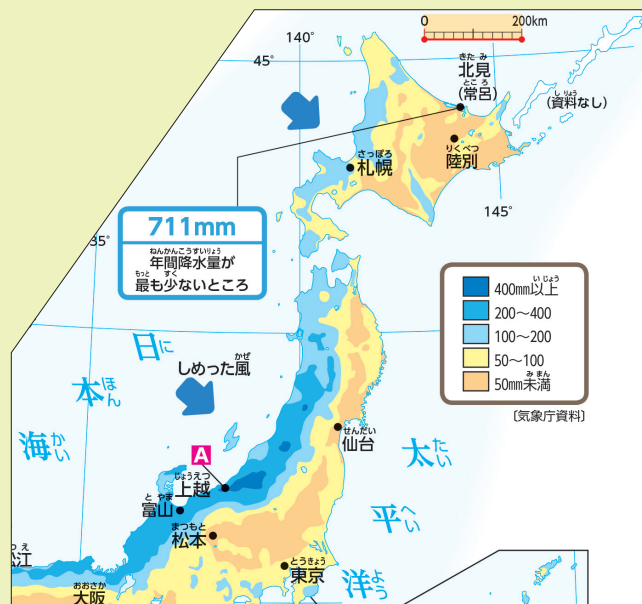


図2 1月の降水量の主題図の一部

令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.97

降雪の仕組み（図1）も解説されています。

さらに同じページの1 1月の気温と2 1月の降水量の図（図2）を読んだ児童から、「1月の平均気温が最も低い（-11.1℃）ところは、緯度の高い北海道（陸別）なのに、年間降水量が最も少ない（711mm）ところも陸別近くの北見（常呂）なのは不思議だなあ？」とのつぶやきが飛び出したら思考が高まった証拠です。教師は「そうだね、陸別あたりはとても寒いのに降水量は少ないなんて変だね」と同調しつつ、「寒い場所は雪が多く降るはず」と単純に考えている児童をゆさぶることができます。少し間を置いて「2の図をよく見てごらん、1月の降水量（雪）が一番多いエリアは、寒い北海道よりずいぶん南にある新潟県の上越のあたりだよ。凡例で400mm以上の濃い青色があるよ。どうしてなのかなあ……？」と半ばポーカーフェイスで教師も演じることが大切です。

「じゃあ、地図帳を使って気候と季節風の関係

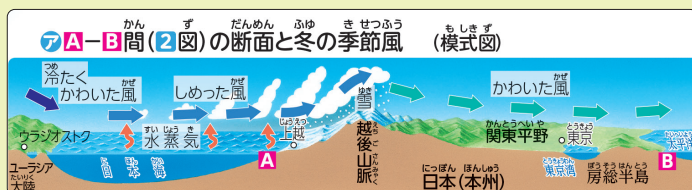


図1 冬の季節風の模式図

令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.97

※②以下は、令和2年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』のページをさす。



- 1 雨温図の丁寧な読み取りと日本海を渡る雪雲の線引き作業で、気候の特色と多雪のメカニズムに気付かせる。
- 2 気候と地形という自然条件が日本の農水産業を支え、持続可能な社会を目指すSDGs思考が地図帳の活用で育まれる。

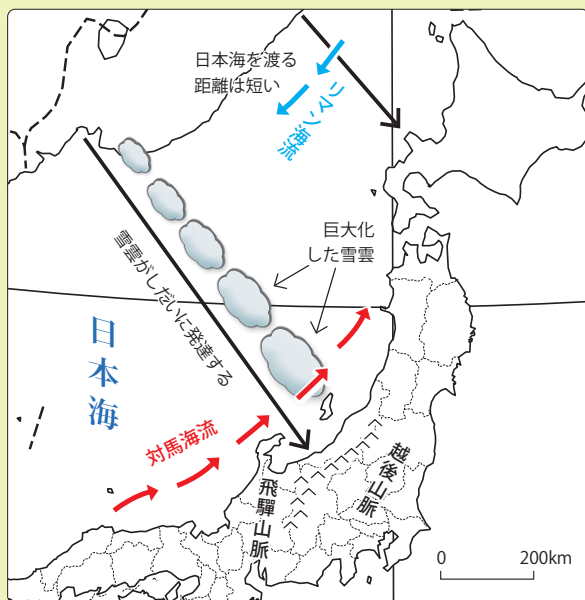


図3 新潟県が多雪に至るメカニズム（筆者作成）

を調べてみよう」と告げ、本時の学習問題にそなえます。雪は氷の粒であること、上空1500m付近が -6°C 以下、地表の気温 3°C 以下が降雪の決め手であることを補足し、陸別や北見には水分を含んだ雪が多くは降らないことを知らせたうえで、次の作業を促すと効果的です。それは白地図を用いて大陸から日本海を渡る北西の線引き作業です（図3）。大陸と上越間に引かれた線が最も長く、その線は日本海を渡る雪雲が水分を含んで巨大化する季節風の通り道に当たり、雪雲が越後山脈や飛騨山脈にぶつかり上昇し氷の粒となり多雪に至るメカニズムを説明します。加えて能登沖まで北上してきた対馬海流（暖流）と雪雲との温度差もこの地域の降雪要因となっています。降雪は、日本海を取り巻く地形・海流・季節風と関係しているのです。



2 気候と地形を人々のくらしや産業と結び付けるSDGs思考を

4年の県の学習で獲得した「人間と自然環境の

相互依存関係」（本誌前号参照）を単に国土に広げるだけでなく、SDGsな思考に導きたいものです。そして「食べ物が美味しい北海道や美しい海の沖縄を未来に残したい」「高地の自然条件と野辺山原の酪農は観光になる」「低地の豊かな水や土を生かす水郷」といったポジティブな見方・考え方を養うのです。地図帳は、持続可能な社会を地域に即して考える「思考の作戦基地」です。「日本の自然のようす（1）（2）」（地図帳p.95～98（②p.87～90））に加えて、100万分の1縮尺の「新潟県」（p.62（②p.56））も活用することをおすすめします。ここには豪雪地帯の妙高山（標高2454m）や冬は積雪深2mにもなる十日町、米🍚やしめじ🍄・まいたけ🍄で有名な南魚沼もあります。



3 ミネラルを含む雪解け水が稲作を、プランクトンの多い寒流が漁業を育む

「日本の国土とくらし」を学習した後、食料生産の単元に移ります。北陸から東北・北海道にかけての美味しい米作りには、広い平野＋豊富な雪解け水＋品種改良＋機械化の4要素が重要である点を扱います。中でも雪解け水にはミネラルが含まれ、夏の水田の昼夜の温度差が米の糖度を高めています。一方、プランクトンが豊富な寒流は漁場を育み、三陸海岸から北海道にかけて水産業（漁港）を発展させています。「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存関係」「地域」といった5つの基本概念を意識しつつ、地理的な見方・考え方の獲得に導きましょう。

【参考文献】

教育出版 小学校社会教科教科書 令和6年度版『小学 社会 5』
寺本潔著『空間認識力を育てる！おもしろ「地図」授業スキル60』
2020 明治図書出版
寺本潔著『観光市民のつくり方』2024 日本橋出版（最新刊）

町のイラストから地図をつくろう

子どもの地図の発達と地図学習

成長に伴って子どもの描く地図は、発達していきます。一般に地図は線的なルートマップの段階から面的なサーバイマップの段階に発達するといわれます。社会科で地図学習が始まる小学校3年は、ルートマップの段階の子どもがほとんどです。この実態を踏まえて、サーバイマップへの地図の発達を促す地図学習が重要です。



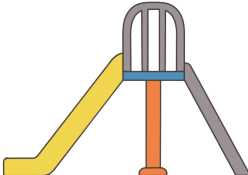
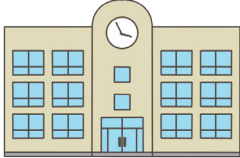


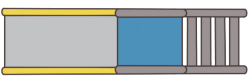
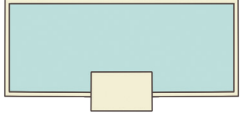
絵地図から平面地図へ

小学校1・2年の学習では絵地図が活躍します。生活科の教科書にも絵地図が登場します。低学年の子どもに自由に地図を描いてもらおうと、建物を絵のように表現する事例が多く見られます。絵を用いた地図は、子どもにとって親しみやすいといえます。3年での社会科の開始に伴って、子どもの地図が絵地図から平面地図に発達するように支援する学習を計画することが求められます。

平面地図を描くポイント

絵地図と比較して平面地図には、いくつかの特色があります。**第一は、視点の変化です。**絵地図では、水平の視点または斜めから見た視点で、建物・樹木などの地物を表現します（ネコの目）。平面地図では、2次元の面的な広がりのある空間を表現できるように、上空からの垂直の視点で表現します（トリの目）。子どもが垂直からの視点を獲得できるようにすることが大切です（表1）。**第二に、道路、鉄道や河川など基準となる地物をよりどころとして学校や自分の家の位置を定位します。**鉄道や主な道路など座標軸となる地物を基に位置をとらえるようにします。**第三に、地図記号を活用してランドマークとなる場所を配置します。**方位の記号も描き入れるとよいでしょう。子どもがこのような平面地図の特色をとらえ、地図を活用することができるようになると地図の読図や作図の技能が身に付きます。

表1 地図の視点（どのように見えるか比べます。）

	ペットボトル	すべり台	小学校校舎
ネコの目 横から見る 			
トリの目 上から見る 			

以上のことに留意してワークシートをご活用ください。

地図にかいてみよう

町のイラストから地図をつくろう

名前 年 組 番

- 右の絵地図を見て、1～3をやってみよう。
- 1 絵地図の小学校から、公園とお寺の間を通り、郵便局の前を通って、駅まで行く道のりを指でたどりま。
- 2 絵地図の指でたどった小学校から駅までの道のりに線をひきます。
- 3 小学校から駅までの道ぞいにあるものを3つかきます。地図記号があるものは記号もかきます。

れい (小学校) ⇒	地図記号 (文)
① () ⇒	地図記号 ()
② () ⇒	地図記号 ()
③ () ⇒	地図記号 ()

- 絵地図をもとに、つぎのようなじゅんで地図をかきましょう。
- 1 鉄道、おもな道路や川をかきます。
- 2 小学校、郵便局や駅などのめじるしとなるものをかきます。地図記号も使います。
- 3 そのほかの道路、たてもの、畑や田んぼなどをかきます。
- 4 方位 (東西南北) を表す方位記号をかきます。

方位記号

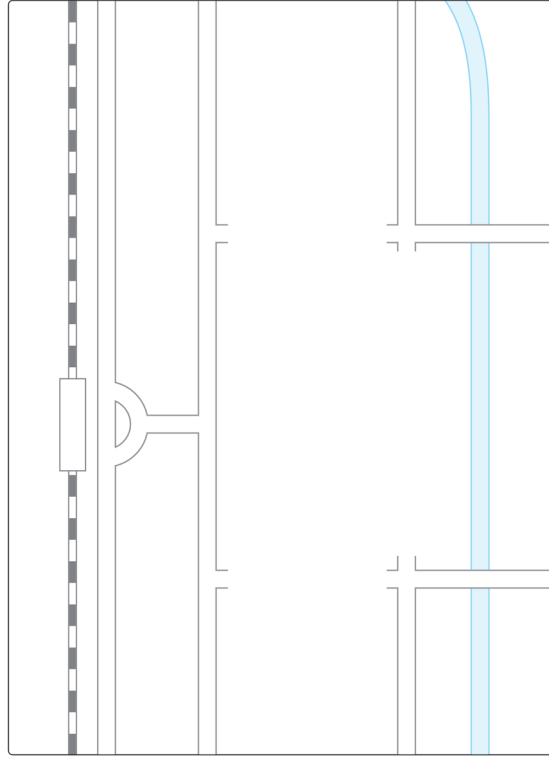


注意!

ワークシート「町のイラストから地図をつくろう」のA3判PDFデータを、
帝国書院ウェブサイトに掲載しています。ぜひダウンロードしてご活用ください。



Webサイトは
こちらから



2024年4月作成

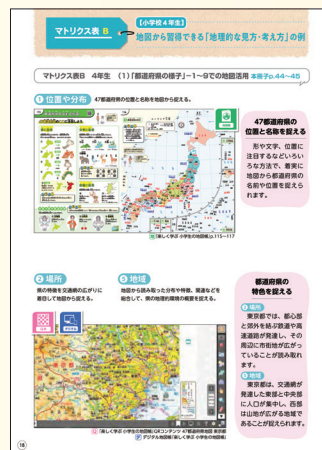
教授用資料

帝国書院

『小学校で身に付けたい地図活用能力』のご紹介

帝国書院では、児童・生徒が小学校から高等学校まで地図帳を活用し学習する中で、どのような地図活用能力を育成できるのかを、大学の社会科教育の研究者や、小・中・高の先生方とともに研究しています。

その成果のうち、小学校3～6年生の4年間について、地図から習得できる「社会的現象等について調べまとめる技能」と「地理的な見方・考え方」の2種類の表に整理しました。また、イメージしやすいように地図活用例と帝国書院のどの地図帳・地図教材で学べるかという参照ページも示し、冊子の形にまとめました。この冊子は、帝国書院ウェブサイトでも公開しています。ぜひ一度、ご覧いただき、ご活用いただければ幸いです。



『小学校で身に付けたい地図活用能力』はこちら



ウェブサイトには令和6年度版の地図帳に対応した表も掲載しております。

付録解説

パリ2024オリンピック・パラリンピックの開さい地フランスをもっと知ろう！

いよいよ2024年7月より、パリ2024オリンピック・パラリンピックが始まります。それにちなんだ資料を、次の4項目で選んでみました。

①フランスと日本の比較（地理的な見方・考え方）

②③近代オリンピックとフランスの歴史

（歴史的な見方・考え方）

●普仏戦争の敗戦ムードを教育、特にスポーツの力で復興させようとして始まったのが、近代オリンピックです。1894年6月、パリの万国博覧会に際して開かれたスポーツ競技者連合の会議で、1896年、第1回アテネ大会を開催することが採択されました。

●1900年、第2回大会はパリで行われ、初めて女性の参加が認められました。写真のテニス選手シャーロット・クーパー（イギリス）は、初めての女性金メダリストです。

●パリ2024大会のマスコットキャラクター「フリー

ジュ」は、フリジア帽という帽子がもとになっています。この帽子はドラクロワの絵画『民衆を導く自由の女神』でマリアンヌもかぶっているもので、フランスの「共和制」を象徴するものです。

④エッフェル塔とフランス料理（社会的な見方・考え方）

●パリ・フランスの象徴であるエッフェル塔。エッフェル塔スタジアムでは、ビーチバレーボールやブラインドサッカーの競技が行われます。

●大会期間中、1300万食の食事が提供されますが、おいしいだけでなく、気候と環境に配慮されています。

（千葉大学教育学部附属小学校 教諭 中谷佳子）





地図帳と価値ある出会いを ～児童が自ら切り拓く、地図帳活用の可能性～

●富山県入善町立桃李小学校 教諭 岩山直樹



① はじめに

3年生になった児童は、新しい教科書をもらいます。「社会科だ！理科だ！」と、教科書との出会いを通して、新たな学びに心を躍らせているようすが見られます。この教科書の中に「地図帳」が含まれています。地図帳と出会った児童は、すぐさまページをめくり、自分が興味関心のある事柄を調べ始めるでしょう。そのようなとき、私たち教員はついつい次のような言葉がけをしていませんか。

「地図帳は社会科で使うので、机やファイルボックスにしまっておきましょう」

何気ない言葉ですが、このような言葉がけによって、児童の地図を活用する力を教師が狭めてしまう可能性があります。学習指導要領（解説）第4章2「内容の取扱いについての配慮事項」で次のような解説がされています。

第3学年から給与される地図帳は、地図を効果的に活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養うことができる教材である。地図帳については、日常の指導の中で、折に触れて、地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料の活用の仕方などを指導し、地図帳を自由自在に活用できる知識や技能を身に付けるようにすることが大切である。また、地図帳を日常的に活用し、地図への親しみをもち、問題解決のための教材として効果的に活用する技能や意欲を育てるようにする。（波線部は筆者）

確かに、社会科の学習では位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養うために地図帳を活用するとあります。しかし、社会科「（だけ）で」活用とは書かれていません。そうではなく、「日常的に」活用とされています。この「日常的に」とは、社会科を含むすべての教科等の学習や家庭などにおいての活用を表しています。つまり、さまざまな学習場面で地図帳を効果的に活用することで、地図を活用する力を育むことが大切とされているのです。

ゆえに、先の言葉がけを正すなら次のような言葉がけはどうでしょうか。

「地図帳はすべての教科等で使うので、いつでも使えるよう机の中にしまっておきましょう」

このような言葉がけにすることで、きっと児童は、「**地図帳ってどの勉強でも使えるんだ。どんなふうに使えるか楽しみだ**」と、地図帳への興味関心を一層高めるでしょう。

本稿では、児童が自ら日常的に地図帳を使うようになるための、具体例を紹介していきます。

② 「地図帳さん」となかよくなろう

（1）地図帳さんの自己紹介

社会科等の学習の時間を活用して、地図帳の活用に関するオリエンテーションの時間を設けます。課題は、「**地図帳さん**となかよくなろう」です。まず、地図帳本体を児童に提示します。そして、**地図帳さん**の自己紹介と題して、地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）p.7～8「地図の世界へようこそ」とp.9～10「地図ってなん



① 開始画面

② 途中

③ 終了画面



図1 QRコンテンツ「地図ってなんだろう」

だろう」を活用しながら、地図の基本を確認していきます。ここでは地図帳の流れに沿って展開していきますが、このときQRコンテンツの動画を活用してみてもいいでしょうか。

教師：教師端末で、地図帳p.9上のQRコードを読み取り（図1 ①）、適宜説明しながら、三つ目の動画の終わりのところにきたら一時停止する（図1 ②）。

児童：「この写真では、ごちゃごちゃしていて、どこに何があるかわからない」

教師：「どうしたらいいかな」

児童：「建物の名前や、どこが道路かわかればいい」

教師：「ここから、どのようにして地図ができてくるのでしょうか。続きを見てみましょう」

教師：教師端末で、続きの動画を流す（図1 ③）。

動画を視聴したあとで、地図帳p.9～10を開くよう指示します。そして、p.9の写真とp.10の地図を実際に比較することで「地図は土地のようすをわかりやすく表したものの」の「土地のようすをわかりやすく」とはどういうことか、児童が具体的に理解できるようにします。

このように、QRコードコンテンツと地図帳を関連付けて活用することで、児童の理解を確かなものにすることができます。

（2）地図帳さんを使う教科はいくつあるのか

地図の基本について理解した児童は、**地図帳さん**の地図のページ（地図帳p.21～）に興味関心を高めていることでしょう。このような姿が見られたところで、次のように展開します。

教師：「地図帳さんは、土地のようすをわかりや

すく表したもののなんだね」

教師：「この地図帳さんを、みなさんはどの教科で使っていきますか」

児童：「先生、当たり前すぎない!?」「簡単すぎだよ！」

「地図帳さんは〇〇科で使う」

教室に児童のざわめきが広がります。ここで、〇〇に当てはまる教科について、ICT機器にある共有ノート等を活用し、児童が互いの考えをデータで共有できるようにします。全員が記入し終わったところで、全員の考えを一通り確認します。

「A児：社会」「B児：社会」「C児：社会」
「D児：国語」「E児：社会」「F児：社会」
「G児：社会」「H児：外国語」「I児：理科」

すると、社会科以外の他教科を考える児童がいるのです。「社会科」と考えていた児童、そして他教科と考えていた児童の考えにズレが生まれ、児童は自然と友達に関わりを求め始めます。

A児：Dさん、どうして国語なの？

D児：だって、地図帳には知らない場所（地名）の名前が漢字で書いてあるでしょ。習っていない漢字もたくさんあるし、その漢字を覚えれば、国語の勉強にもなるんだよ。

B児：Hさん、どうして外国語なの？

H児：だって、地図帳p.1～3には、世界地図が



図2 QRコンテンツ「世界のあいさつ」

QRコンテンツはこちらから

あって、その下に外国のあいさつがかいてある。QRコードもあるよ（図2）。そのあいさつを調べることで、外国語の勉強になると思うんだ。

F児：Iさん、どうして理科なの？

I児：だって、地図帳には、動物や植物の絵（絵記号）もかかっているんだよ（図3）。生き物について勉強するのは理科だと思うから、理科で使えそうと思ったんだ。

*児童の実態によっては、すべてが「社会科」となる場合ももちろんあります。その場合は、教師が「社会科でしか、地図帳さんは使われないんだね」と、児童をゆさぶってみることで、上記のような展開があり得るでしょう。

このような関わりを通して、児童は、「だったら、〇〇科では□□なこともできそうじゃないかな」と、地図帳の活用について自ら可能性を切り拓き意欲的に活用例を考え始めます。そこで、3年生で学習する教科等を確認し、教科ごとの活用例を考える場を設けます。このとき、報告会など、活用例を異学年や家族といった他者に発信するような場を設けると、児童は見通しをもって学習活動に取り組むようになります。表1は、児童が考えた活用例です。

③ おわりに

教師と同様に、児童も「地図帳は社会科で使うもの」と、活用場面をわかった、知った気になっ

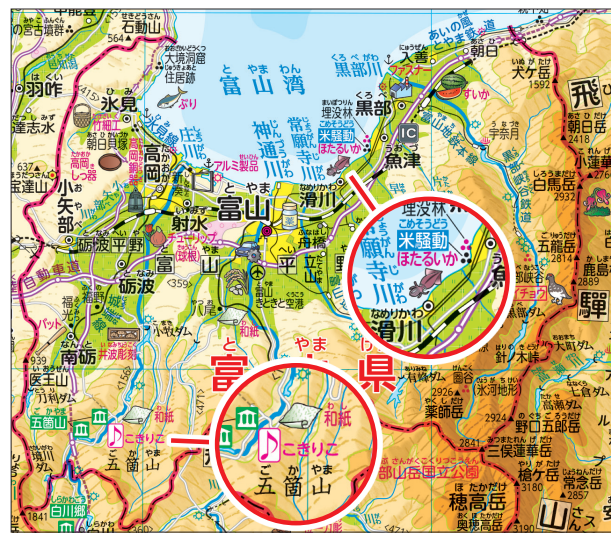


図3 地図帳は〇〇で使う ほたるいか・こきりこの絵記号
令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.57 富山県の部分
(85%縮小、丸の中は120%拡大)

ています。しかし、この「わかっている・知っている」という思い込みが最高の教材になるのです。「地図帳はどの教科でも自由に使っていいんだ！」と、地図帳活用の可能性を自ら見いだした児童は、「遊びながら」「楽しみながら」地図帳を活用していきます。この過程を通してこそ、確かな地図活用能力が育まれていくのです。児童と地図帳との出会いを価値あるものにしてみませんか？

表1 児童が考えた地図帳の活用例

教科等	活用例を考える児童のようす	児童が考えた活用例（すべて地図帳活用）
国語科	知らない漢字（地名等）がたくさんあるよ。	漢字を学習するための地名クイズ
算数科	地図上の1cmは実際の○kmと書いてあるよ。	距離を計算するための問題
音楽科	音符マーク♪があるよ。（図3）	音楽の舞台になっている場所はどこでしょうクイズ
図画工作科	都道府県はいろいろな形をしているよ。	好きな都道府県を〇〇（紙、粘土、木材）で作ろう
外国語活動	「世界の国からこんにちは！」のQRコードがあるよ。	このあいさつはどここの国でしょうかクイズ

地理院地図と地図帳で 産地調べ

●地図研究家 今尾恵介



地形図には「果樹園 ○」という記号がある。イコール果物がとれる場所と考えそうになるけれど、この記号はあくまで「果樹」になるりんご、みかん、もも、ぶどうなどが対象で、パイナップルやいちご、すいかなどは除外される。具体的には畑またはビニールハウス等の記号（ガスタンクやプラットホームの屋根部分などを表す「無壁舎」の表現だ。

誰にでもわかりやすい果樹園の記号ではあるが、残念ながらそこに何が植えられているかを図から判断することはできない。そこで頼りになるのが令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』（以下、地図帳）である。各地方の図には代表的な作物が小さな絵記号で記載されているから、これと国土地理院が発行する地形図またはその電子版の「地理院地図」を併用すればおよその見当はつく。例えば和歌山県の地形図には多くの果樹園記号が用いられているが、地図帳p.46では有田市に「みかん 🍊」、「はっさく 🍊」の絵記号が載っている。なのでそのいずれかだろうし、もう少し南のみなべ町は「うめ 🍑」だから梅林が広がっているのだろう。県の北端を流れる紀の川を東へ遡った橋本市なら「かき 🍎」である。

私はある生協に加入していて、配達日になると届けられた箱からいろいろな品物を取り出して収納している。子どもの頃から菓子や農産物の生産地を確認するのがくせになっているが、いつも注文している熊本県上天草市のおおやの大矢野みかん、北海道津別町や蘭越町のたまねぎとじゃがいも、秋田県大仙市南外の「あきたこまち」の精米、茨城県石岡市八郷地区のかぼちゃなどなど、全国から届く農産物のおかげで日々暮らしている。

具体的な地名とともに、ものによっては生産者夫妻の似顔絵が添えられていたりするので身近に感じてしまう。だからそれらの地域で大きな自然災害があれば彼らの畑が無事だったかと心配もするし、「猛暑のため欠品」といった紙切れが入っていれば、無念の欠品の重さにも思いを致すことができるし、肥料や飼料の高騰でやむなく値上げしますというメッセージでもあれば、「それなら安い外国産を買えば？」などと薄情な思考には至らない。

「地理院地図」には左上に検索窓があって、そこに地名を入れて検索すれば地図に青い旗が立つので一目瞭然だ。私のように地名に興味を持っている場合、例えば「谷地」のつく地名がどのように分布しているかは一瞬で調べられる。「ヤチ」はアイヌ語で「泥」を意味することから低湿地につくことの多い地名であるが、具体的な分布域は東北地方全般だ。ところが青森県の津軽地方だけは「谷地」ではなく「菰」という珍しい字が用いられていて、これをヤチと読ませることがわかる。

そのあたりは専門家でも大いに活用できるのだが、意外な活用法が魚介類の養殖場だ。地形図はそもそも陸上を中心に表現した地図ではあるが、湾内に養殖いかだが並んでいる場所では、破線で示す「特定地区界----」の記号で水面の一部を囲み、「はまち養殖場」「かき養殖場」のように記されている。もちろんすべての養殖場を網羅しているわけではないだろうが、個別具体的な場所でのどのような魚介類が養殖されているかがわかるのが強みだ。

「養殖場」で検索して青い旗がびっしり立つ地域は特に養殖漁業が盛んなところで、とりわけ目立

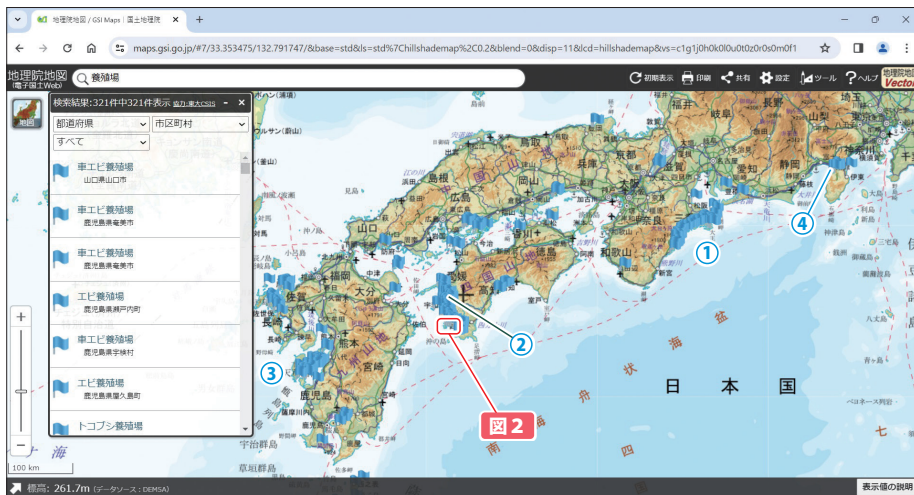


図1 地理院地図「養殖場」の検索結果（西日本）青い旗が立っているところが養殖場。（国土地理院ウェブサイトより）



図2 地理院地図「養殖場」の検索結果（愛媛県愛南町船越）真珠とはまちの養殖場（国土地理院ウェブサイトより）



図3 地図帳でみる愛媛県南西部 図2の範囲の近くには、はまちの絵記号がある。他に真珠とたいの絵記号もある。（令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.41）

「地理院地図」

国土地理院では、紙の地形図に加えて、「地理院地図（電子国土Web）」というウェブサイトでデジタルの地図や空中写真などを公開しています。

地理院地図は
こちらから



つのは三重県の熊野灘沿岸①、愛媛県南西側の豊後水道に面した地域②、それに熊本県の天草③である（図1）。このうち三重県は志摩半島寄りに「真珠」が多く、その他は たい、はまちであり、愛媛県も同じく真珠、たい、はまち（図2）。両者に共通しているのはリアス海岸で波静かな入江が多いことだ。熊本県の天草もたい、はまちが多いが、どちらかといえば はまち優位で、ふぐ、えびの養殖場もある。瀬戸内海にも「養殖場」は点在していて、こちらに目立つのは「かき」。

単に「養殖場」と表示された場所もあり、その中で最も多いのが静岡県沼津市の内浦湾を中心としたエリア④だ。こちらは日本最大級の養殖「まあじ」の産地で、このあたりの海沿いを訪れるとあじの干物を売る店が並んでいる。現地で食べる干物定食はまさに絶品だ。地図帳には漁業資源にも多くの種類の絵記号が用いられていて、見るだけで楽しい（図3）が、これと「地理院地図」の養殖場を見比べつつ、地元の農協・漁協などのウェブサイトなども検索しながら全国各地の名産を調べるのは実に興味深い。この原稿を書きながら、琵琶湖や霞ヶ浦のような淡水湖でも真珠（淡水パール）を養殖していることを初めて知った。日本の広さと多様性を改めて知らされた思いである。

（いまお けいすけ）/1959年生まれ。

出版社勤務を経て地図・地名分野の執筆を始める。著書に「地図帳の深読み」シリーズ（帝国書院）など多数。日本地図センター客員研究員。日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。

指導書Webサポートについて

- 指導書Webサポートに掲載されたコンテンツを、帝国書院Webサイトからダウンロードしてご利用いただけます。

地図帳 関連コンテンツ

学年別指導計画作成資料

3年生から6年生まで、計画的に地図指導を行えるよう、学年別に指導計画を作成するための資料です。

地図マスターへの道・ 単元及び学習指導要領対応表

「地図マスターへの道」(全100問)の各問題を解くことで育成できる力を一覧表で示しました。

地図マスターへの道・解説集

「地図マスターへの道」(全100問)の各問題の答えと詳細な解説、さらには発展問題を掲載しています。

地図マスターへの道 解答

「地図マスターへの道」(全100問)の問いと答えを一覧表で示しました。

※内容は2024年4月1日時点のものであり、最新の状況と異なる場合があります。

白地図・ワークシート 関連コンテンツ

白地図集

47都道府県別(交通、行政)、日本の地方別、日本全図、世界全図、大陸別など、さまざまな白地図を掲載しています。

ワークシート集

「地図のやくそく」や「地図マスターへの道にちょうせんしよう!」などに対応したワークシートを掲載しています。

学習者用ワークシート類 関連コンテンツ

「こどもと地図」関連コンテンツ

児童が地図に親しむのに役立つワークシートなど、地図指導に使える資料を掲載しています。



Webより
冊子アンケートに
お答えいただけます!

(今号からWebアンケートだけになりました。)



〈QRコード使用上の注意〉QRコードを読み取って表示されたサイトにアクセスした際には、別途通信料がかかる場合があります。

〈本誌掲載の他社商標について〉本号に記載されているシステム名、製品名などには必ずしも商標表示(®、TM)を付記していません。

- ・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標または登録商標です。
- ・Microsoft、Microsoft PowerPointは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・その他の会社名および製品名・ロゴマークは各社の商号、商標または登録商標です。

世界がひろがる! こどもと地図

2024年度前期号 2024年4月17日発行(No.70)

©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024

発行所 東京都千代田区神田神保町3-29(〒101-0051)

株式会社 帝国書院

発行人 佐藤 清

電話 03-3262-4795(代)

<https://www.teikokushoin.co.jp/>

教授用資料

イラスト: すがのやすのり

写真: アフロ